

## 雨量に関する基礎

**降雨強度とは**：瞬間的な雨の強さを1時間あたりに換算した雨量（mm/h）

### 以下気象庁Q&Aから

**Q1. 確率降水量とは何ですか？**

A1. 大雨の対策を立てるために、過去の降水量の観測データから50年・100年といった長い期間に1回といった稀な大雨はどれくらいかを統計的に推定した値です。また、その現象（例えば、1日で100mm降ること）が1回起こりうる「50年」「100年」という期間を「再現期間」と言います。

**Q2. 100年に1回の大雨は100年に1回ずつ起こるのですか？**

A2. 必ずしもそうではありません。「再現期間100年の確率降水量」とは、「長い期間を平均した場合に100年に1回起こる大雨」という意味で、実際にはある100年の間に2回起こることもあれば1回も起こらないこともあり得ます。サイコロに例えると、サイコロを6回振った場合に「六」の目が1回も出ないこともあり得ます。しかし、何百回とたくさん振れば「六」の目は平均して6回に1回の頻度で出ます。

**Q3. 50年に1回の24時間降水量は東京（大手町）では317mm、隣接する千葉県の船橋では240mmと、大きく異なっています。なぜこのような違いが出るのですか？**

A3. 雨の降り方は地形などの影響を受けやすく、隣接した地域でも大きく異なることがあります。アメダス地点の確率降水量は1976～2007年の観測データに基づいていますので、少なくともこの期間においては、東京と船橋で雨の降り方がそれだけ異なっていたということになります。

**Q4. 確率降水量の計算に地球温暖化の影響は考慮されていますか？**

A4. 考慮されていません。確率降水量は、計算に使ったデータの期間は気候（雨の降り方）が変わらないという前提で計算しています。しかし、51地点の日降水量の確率降水量を106年間の前半と後半で分けて計算すると、全体としては後半の方が大雨の頻度・強度が増えていますし、他の資料（日100mm以上の日数）などでも長期的に大雨が増えている傾向が見られます。こうした大雨の長期的な増加の背景として、地球温暖化が関係している可能性があります。

